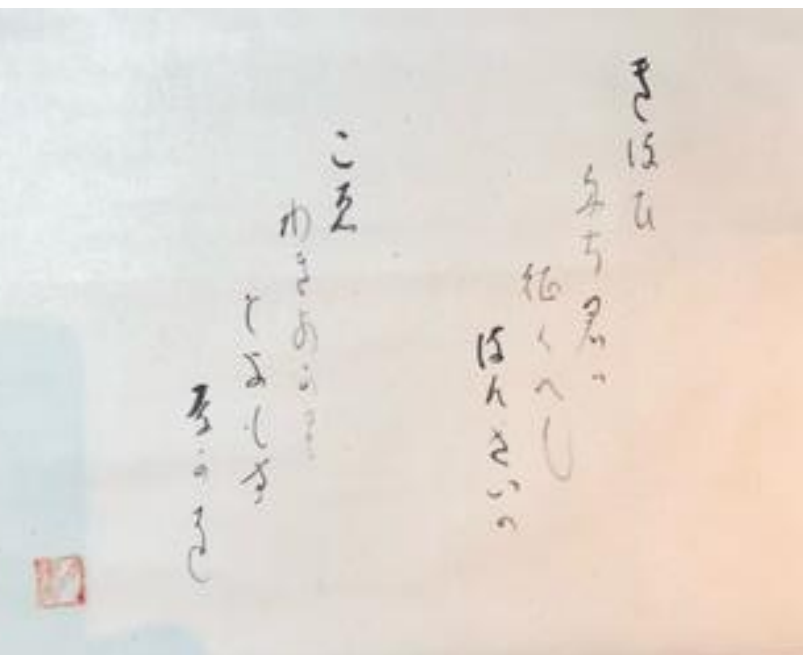


## 秦野市立図書館前田夕暮記念室 新収蔵資料紹介



令和4年2月に、前田夕暮記念室に寄贈された資料二点を御紹介します。

○資料Ⅰ 掛軸（短歌の書かれた色紙を軸装したもの）



### 【読み】

きほい  
たち君は  
征くべし  
ばんざいの

こゑ  
わきあがり  
どよもす  
なかを

夕暮

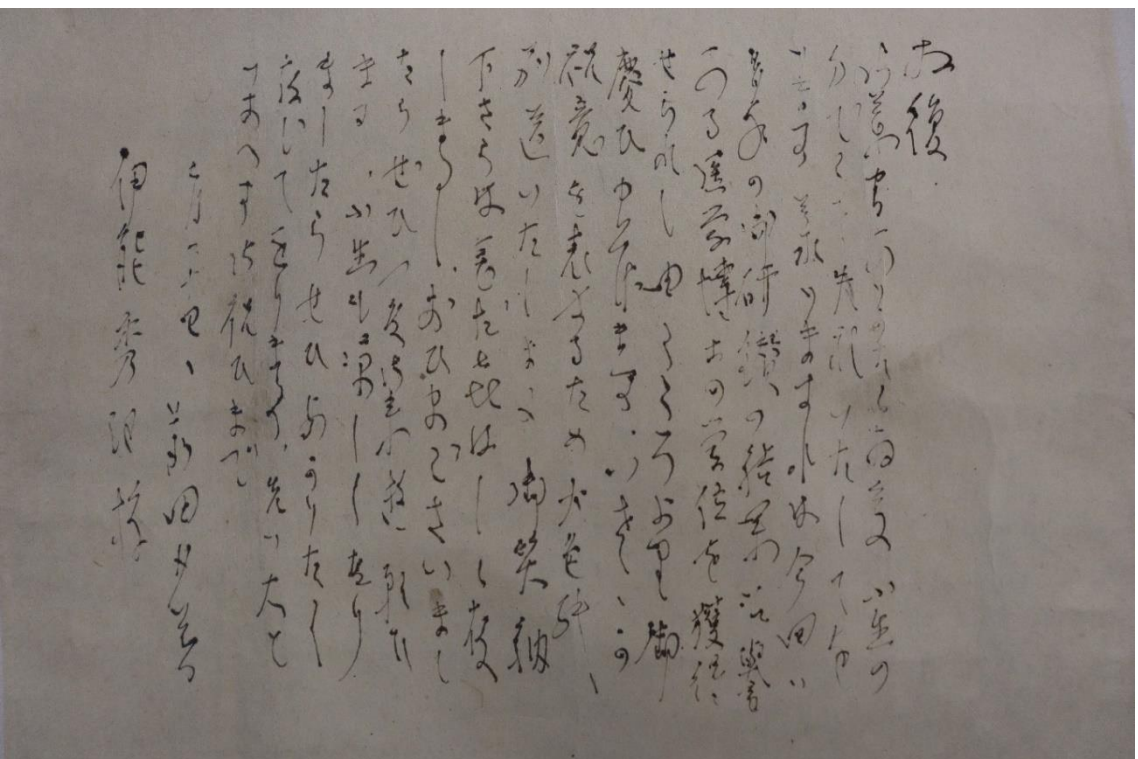
### 【資料の概要】

寄贈者の伊能高明氏によれば、高明氏の父、伊能秀記が戦争に赴く際に、前田夕暮から贈られた短歌であり、軸装して自宅にかけてあったということである。

この歌は、1942（昭和十七）年、夕暮五十九歳頃の作。『前田夕暮全集 第二巻 歌集Ⅱ』266ページに、歌集『富士を歌ふ』に掲載されたものとして「伊能秀記出動」の詞書とともに記載がある。

伊能秀記は、大正五年生まれで、夕暮より三十三歳年若の歌人なので、この歌を贈られた時の年齢は二十六歳ほどである。前田夕暮の創刊した短歌雑誌『詩歌』の同人で、戦後、夕暮の息子の前田透、前田夕暮記念室立ち上げに尽力した歌人の香川進とともに、『詩歌』の復刊に際し実務委員を担当した。

○資料2 掛軸(書簡を軸装したもの)



【読み】

拝復

御葉書ありがた□ゐます 小生の  
ふでにて失礼いたしてを  
ります 承りますれば今回は  
貴殿の御研鑽の結果名譽  
ある医学博士の学位を獲得  
せられし由こころより御  
慶び申し上げます。いささか  
祝意を表するため大色紙  
別送いたします 御笑納  
下されば甚だ喜ばしく存  
じます おひまごさいまし  
たらぜひ一度御来遊頼み  
ます。小生も涼しくなり  
ましたらぜひあがりたく  
存じてをります。先ずはと  
りあへず御祝ひまで

七月二十四日 前田夕暮

伊能秀記様

【資料の概要】

手紙の内容は、夕暮が伊能秀記にあてた医学博士の学位取得祝いである。秀記から送られた葉書に対しての返信とみられ、「祝意を表するため大色紙別送いたします」とあり、その色紙が資料1であると考えられる。

夕暮の手紙を丁寧な軸装していたところから、伊能秀記が、自身に贈られた歌の色紙とともに、この手紙をととても大切にしていたことがうかがえる。